

計画(プラン)やプログラムの戦略的環境アセスメントで扱われる代替案

戦略的環境アセスメントの代替案立案や検討は、意思決定者に情報を提供したり助言をしたりする際に環境問題や社会問題を分かりやすく組み込む有意義な方法である

著者: Ainhua Gonzalez, Riki Therivel *With input from* Maria Partidario, Richard Fuggle, Charlotte Bingham, Peter Croal, Lea den Broeder, Sukhad Keshkamat

(日本語訳: 浦郷昭子)

代替案を立案し検討することは(政策・計画(プラン)・プログラムの目的によって様々だが、以下開発計画とする)戦略的環境アセスメントの真髄であり、意思決定に情報を提供し助言を行う際、環境問題(生物物理的側面だけでなく)を分かりやすく組み込む有意義な方法である。しかし、これまでに実施された戦略的アセスメントを見ても、代替案の立案・検討は最も困難でうまく行っていない側面でもある。

戦略的環境アセスメントは現実的かつ意味のある代替案立案を支援すべきである。実際ほとんどの代替案は開発計画の中に組み込まれているが、代替案の枠組みが狭すぎる場合は、開発計画の上位にあたる政策や計画(プラン)の目的にまで拡張すべきである。代替案は開発計画作成過程で立案されるべきものであり、開発計画立案後に追加的に作成されるべきものではない。代替案は体系だった透明性の高い方法で立案されるべきものであり、以下に示す一つまたは複数のテーマに分類することができる

- 戦略比較タイプ(ある目的を達成させるための高度な代替戦術を比較検討する)
- 価値の比較タイプ(文化的価値や安全の観点から複数の政策の優先度を比較検討する)
- 影響低減比較タイプ(スコーピングで特定された影響について、影響をもたらす原因となる計画・行為の代替案を立案し、それらの比較検討をする)
- セクター比較タイプ(複数のセクターを対象に、実現可能性や必要性を比較検討したり、セクターごとの優先度を比較検討したりする)
- 空間レイアウト比較タイプ(空間計画のポリシーや目的を実現させるため、複数のレイアウト案を比較検討する)
- モード(手法)比較タイプ(ある目的を達成させるため、複数の技術や方法を比較検討する)
- タイミング比較タイプ(計画を実行に移す複数のタイミングを比較検討する)

代替案のアセスメントは、代替案を比較するために、持続可能性に関する一連の評価項目を同じ精度で用いることを目指すべきである。代替案の比較検討の多くは、定性的に、ステークホルダーや地元の知恵を十分に取り込みつつ、専門家によって行われる。評価をよりシステムティックに定量的に透明性高いものにするため、地理情報システムや多基準分析、モデリングなどのツールも用いられる。代替案アセスメントによって選択される案は、社会的にも、経済的にも、環境的にも受け入れられるものでなければならない。もし、選択された代替案が最も環境にやさしいもの、あるいは

は最も社会にやさしいものでなかった場合、なぜそのような選択を余儀なくされたのかをSEAレポートで説明すべきである。

知っておくべき重要な5項目

1. 開発計画者とSEAチームが合同で代替案立案作業に取り組むことにより、有意義な代替案が立案される。
2. あらかじめ本命案だけしか念頭にない場合には、当て馬的代替案が立案される。代替案比較では、本命案の利点と他の案の弱点が示され、当初の予定通り本命案が選択される。
3. 代替案は、開発計画の目的やカバーするエリアによって異なる。国家廃棄物管理計画など高いレベルの場合、複数の戦略的政策目標が代替案になる。地域土地利用計画などの低いレベルの場合、ゾーニングや場所、ルートなどが代替案となる。
4. 代替案は次のようであればならない：
 - 有意義なものであるべき：開発計画の目的を達成させるための持続可能な解決策を見出すため、開発計画や生息地保護などの法制度面だけでなく、環境や社会の現状と傾向が考慮されていること
 - 実行可能であるべき：技術的・経済的に実現可能であり、いずれの組織・関係者にも許容され、計画された期間内に実施可能であること。ただし、政治的に困難であったり、異論のあるものは実行不可能とは言わない。なぜなら、それらは別の未来の体制によって受け入れられるかもしれないからである。

事例A： 戦略的電力計画のための意味があり実行可能な代替案を立案するには以下のようなものが求められる

- 有意義なものにするために：人口や気候変動予測を基にした様々な電力需要シナリオを想定し、目標値（たとえば電力依存度を80%に落とすなど）に合致するような電力供給代替案を立案する
- 現実的なものにするために：関係する団体や組織の受け入れ可能な範囲を考慮して、代替案を立案する（たとえば関係者や市民が受け入れ、支持できる代替案とするなど）

事例B： 地域の再生可能エネルギー計画のための意味があり実行可能な代替案を立案するには以下のようなものが求められる

- 有意義なもの：スコーピングで特定された課題をベースに異なる代替案を立案し（たとえば、影響を受けやすい種へ影響を及ぼすものを特定したうえで、生態的価値のある氾濫原や落葉樹林などの重要な場所を避ける代替案や、先住民崩壊や健康被害を避けるための代替案を立案するなど）、同時に代替案がより上位の計画目標と整合性が取れるようにする。
- 現実的なもの：技術的な実現可能性を考慮して代替案を立案する（たとえば、再生可能エネルギー開発と気候変動回復の予算を超過しない範囲で、最も適切な技術など）。

5. SEAの代替案検討では、トレードオフと関連するリスクについて述べられるべきである（たとえば、環境的損失と社会的利益のバランスなど）：代替案選定の際には、環境面、社会面、経済面の利益と損益を考慮すべきである

実行すべき重要な5項目

1. 代替案は、SEAの早い段階で立案する（たとえば、開発計画の議論を開始する際または開発計画案の段階）

2. 代替案の立案と評価に参加型アプローチ（フォーカスグループかワークショップ）を適用することによって、関係機関や関係団体、市民が代替案を提案し、結論が出る前に代替案による影響の可能性に関する意見を述べる有意義な機会が与えられることになる。
3. 代替案の評価には2段階のアプローチを適用させること。第一段階では、すべての代替案の概略的な比較を行う。この段階では、比較だけではなく法的な制限や条件、すでに決定済みの事項（例：認可された事業など）も考慮に入れる。この第一段階は、数を制限した代替案に対し詳細な検討を行うための選別作業の役割を果たす。第二段階は、選別された代替案のより詳細な比較分析を行うことになる。
4. 全ての代替案に対し同じ精度で評価し、システマティックな評価方法をとること。評価結果の透明性を高め、より分かりやすい比較を行うため、骨太な方法（たとえば、代替案の環境・体制・社会経済の利点や欠点を表す数値や定性的な条件を用いたり、環境情報マップや危険・重要エリアマップと政策計画図を照合させるなど）を用いること。
5. SEAのなかでどのように代替案が検討されたのかという経緯を報告書にまとめること。SEAレポートは、明確で、ぶれず、要領を得たものであるべきで、以下の事項を記載すべきである。
 - 代替案がどのように立案されたか
 - どのような関係者が考慮され、どのような関係者に意見を聞いたのか。
 - 初期の段階で除外された代替案がある場合、なぜそれらが除外されたのか。
 - 検討されたすべての代替案の概要
 - どのように代替案が評価され、評価された結果どうなったか（たとえば、関連するリスクなど）
 - なぜその代替案が選択されることになったのか
 - 代替案立案と評価にあたって、どのようなデータが不足し制限要因となったか
 - 事業の代替案の評価を行う上で、SEAによる代替案評価結果がどのように生かされたか。

FURTHER READING, EXAMPLES, ETC.

EPA (2014) Developing and assessing alternatives in Strategic Environmental Assessment. Environmental Protection Agency: Ireland.

Collingwood Environmental Planning, Land Use Consultants, Levett-Therivel Sustainability Consultants, Scott Wilson, Treweek Environmental Consultants and C4S (2006) Do's and Don'ts Guide to Generating and Developing Alternatives. [http://www.sea-info.net/files/general/Options_Do's_Dont's_Guide_\(Dec_06\).pdf](http://www.sea-info.net/files/general/Options_Do's_Dont's_Guide_(Dec_06).pdf).

更に知識を深めたい方は以下のサイトへ

www.iaia.org/publications-resources

Downloadable Publications > FasTips

提言もしくは FasTip に加えてほしいトピックがあれば、FasTips シリーズの編集者である Maria Partidário (mpartidario@gmail.com)に連絡してください。